

【ESD学習支援活動】

奈良市立飛鳥小学校「カヌー体験教室」支援報告書

家庭科教育専修 学部1回生 畑下さつき

1. 実施日 平成29年8月6日（日）
2. 場所 奈良市立飛鳥小学校（奈良市紀寺町785）
3. 参加者 英語教育専修 糸綾香、北側瑞歩、谷垣徹、櫛乃里花、水名口愛梨
家庭科教育専修 畑下さつき、東尾彩夏
理科教育専修 安納圭毅、種瀬史歩
数学教育専修 宇都宮怜奈
株式会社モンベル スタッフ4名
奈良市立飛鳥小学校 教員、児童、飛鳥C・S協議会

4. 活動支援内容

平成29年8月6日（日）、奈良市立飛鳥小学校でカヌー体験教室が開催され、本学ユネスコクラブ員が活動の支援に当たった。今年で3年目を迎え、本学ユネスコクラブ員が毎年継続的に支援に関わらせていただいている。この活動は、飛鳥小学校区の子どもたちにカヌー体験をするだけでなく、ライフジャケット着用の重要性を伝える、水難事故防止の取り組みでもある。

今回の活動支援を通して感じたことを、以下の2点で振り返る。第1に水難事故防止の啓発について、第2に学校・地域・企業との連携についてである。

第1の水難事故防止の啓発についてであるが、この活動は子どもたちにとってカヌーに乗るといふ普段はできない体験ができるということで、子どもたちも楽しんで参加してくれているが、同時に学びの部分も充実している。東日本大震災の津波被害の教訓から開発されたライフジャケット「浮くっしょん」を使用し、ライフジャケット着用の重要性や災害時の救命方法の実演など、子どもたちにとって非常に大きな学びになったと感じた。

第2の学校・地域・企業との連携について。子どもたちに対して、モンベルの方々が水難事故の恐ろしさを伝えている様子を見て、専門家から正しい知識を教えてもらう場を設けることは必要だと感じた。また、休日にもかかわらず、たくさんの先生方や地域の方々もサポートしてくれていた。だからこそ、安心して参加できる行事であり、地域ぐるみで子どもたちを育てるという意識が根付いていると感じた。先生方も、子どもたちと楽しんでいる様子も見る事ができた。教師は自ら子どもたちと関わりをもっていくことが大切なのだと学んだ。学校・地域・企業、そして私たち学生という、たくさんの人が関わって一つの行事を創り上げているということが、新鮮に感じられた。

以上、今回の活動を通して私が感じたことである。この活動はユネスコクラブが3年間継続して関わってきたということで、また来年もぜひ参加したいと感じた。



プールでカヌーを体験する様子



モンベル辰野会長と集合写真